

熊本県立玉名工業高等学校 令和元年度(2019年度)学校評価表

1 学校教育目標
『工業人たる前によき人間たれ』をスローガンに掲げ、「明朗 誠実」「自律 協力」「勤勉工夫」「健康 安全」の教育綱領に則り、心豊かで個性に富み、活力にあふれ、礼節をわきまえた人間性の確立に努め、我が国の産業の振興や地域の発展に寄与できる実践的技術者を育成する。

2 本年度の重点目標
<p>1 安心安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災教育、安全教育の推進 ・ 不祥事ゼロ+いじめゼロ+生徒・職員の交通事故半減 ・ 5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の徹底 <p>2 夢実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の充実 ・ 進路決定 100% ・ 入学志願者確保 ・ 資格取得の推進

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針の徹底	学校教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	教職員には97%以上、保護者には92%以上の認知度	職員会議やPTA総会・学年保護者会・学校ホームページ及び安心メール等を活用して、教育方針を周知する。	B	様々な行事や機会を捉えて周知したが、アンケート結果では、認知度が教職員98%、保護者86%となり、昨年度より保護者の認知度が少し低下した。
	学校改革の視点に立った学校運営	職員の負担軽減による学習指導及び生徒指導の充実	①職員朝会及び会議等の削減と効率化 ②超過勤務時間の縮減	職員朝会等におけるゆうnet活用を促進する。運動部活動に係る活動指針の作成及び適切な活用を図る。	B	月水金実施の職員朝会も定着し、連絡用ペーパー廃止に伴う、ゆうnetの積極的活用もスムーズになった。また、運動部活動に係る活動指針を作成し、顧問間の共通理解を図った。
	入学定員の確保	入学希望者の増加	入学希望者確保 前期1.9倍以上 後期1.2倍以上 (昨年度 前期1.90、後期1.21)	①中学校訪問による工業各科、部活動等の紹介 ②体験入学の改善	B	体験入学や中学校訪問、本校のパネル展示等により、本校の魅力を積極的にPRした。前期選抜は1.67倍、後期選抜では、120人の募集に対して107人となり、0.89倍であった。

学力向上	教科指導の改善	指導技術の向上 専門性の向上	授業に関する興味関心を80%以上にする（昨年度77%）。	①授業評価の実施 ②研究授業への積極的参加（授業改善）	B	授業に関する興味関心は77%（昨年同様）となった。夏に授業改善及び授業評価についての職員研修と、1,2学期に研究授業週間を実施した。
	基礎学力（読み、書き、計算力）の定着	自学の取り組みの向上	基礎学力の把握と教材研究の工夫を通して学習への取組の向上	①学力テスト等による基礎学力の把握 ②定期考査への取組指導	C	基礎力診断テストや学力コンテストを実施した。課題等の提出物は、期限を守れているが、予習復習までは十分にできていない。
キャリア教育（進路指導）	生徒全員の進路実現	進学希望者及び求職者全員の進路先決定	進学希望者及び、求職者の最終合格・内定率100%達成と、初回受験合格率90%を目標値とする。	①担任と生徒との二者面談及び保護者を含めた三者面談を実施し、効果的な進路指導を行う。 ②全職員による面接指導の実施 ③個別進学指導及び公務員課外授業を実施 ④各学年において各種検査の実施及びセミナー等の実施	A	令和2年1月30日（木）現在、求職者の就職内定率は、99.4%で残り1名である。また、初回受験合格率は、91.1%であった。 ①生徒・保護者・担任間で円滑なコミュニケーションを図り効果的な進路指導を行うことができた。 ②全職員の協力を得て面接指導を行った。 ③適切な個別指導を行うことができた。 ④各学年において進路に関する検定やセミナーを適切に行うことができた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	正しい制服の着用と地域に信頼される生徒の育成	①服装や身だしなみについて、理解させる。 ②地域に信頼される行動を身につけさせる（服装検査の合格率を、各クラス90%以上とする）。	①服装頭髪検査に向けた事前指導の徹底 ②地域に信頼される行動を生徒間で身につけさせる。	B	①昨年に比べて合格率が下がっており、特に3年生が就職試験内定後、ひどい状態であった。 ②シャツを出している生徒はほとんど見なくなった。

		好感が持てるあいさつの徹底	校内、校外での統一したあいさつ	場に応じたあいさつ指導	B	①生徒会による挨拶運動は昨年に引き続き定着している。授業時の挨拶もできている。 ②授業や部活動等による指導の効果も見られた。
	交通安全教育の推進	自転車運転マナーの向上・原付バイク運転マナーの向上	①通学路における交通指導 ②自転車二重ロックの徹底 ③交通事故の前年比30%減 ④交通違反の30%減	①現地での登校指導の充実 ②二重ロックの点検と集計 ③原付通学生の定例会の定着と効果 ④担任指導や全校集会等による周知徹底	B	①通学路における現地の指導は範囲を拡大し定着できた。 ②自転車の二重ロックは呼びかけを徹底しているが、実施率は少し低下している。 ③原付バイク通学生の定例会は昨年に続いてよくなっている。 また、原付バイク等の交通事故は昨年度とあまり変わっていない。(原付13件、自転車6件)
人権教育の推進	人権・同和教育の推進	①研修の充実と推進体制の強化 ②指導方法の工夫と改善 ③学習環境の整備・充実と指導者の育成	①学期に最低1回程度の校内職員研修を実施 ②人権教育便りの配布(学期に1回) ③校外の各種研修会への参加を推奨(2回以上参加65%) ④学年に応じた、効果的なLHRの実施	①人権教育推進委員会で、校内職員研修の内容を検討 ②人権啓発、同和問題への関心を持つよう、最近の問題を提示 ③校外研修に全職員へ参加の呼び掛け ④人権教育推進委員会や学年会で内容を協議	B	①②校内研修を行うと同時に、今年度は教職員部落問題認識調査を行った。結果を人権教育推進委員会で考察し、来年度に向けて対策を協議していく。 ③④校外研修への参加は述べ人数で65%を少し越え、人権LHRでは各学年部と内容を検討、実施した。
	学力保障、進路保障の支援	確かな学力を身に付け、進路を保障する取組の強化	すべての教科で人権・同和教育の視点で学習指導、生徒指導を展開(就職内定率100%)	進路指導部や各学年と連携し、全職員が生徒一人一人を大切にする学習指導、生徒指導の体制を強化	A	進路指導部が主体となり、各学年、教育相談部も含め全職員で生徒の進路保障に向けて連携を取りながら取り組むことができた。
	命を大切にすることを育む指導	自尊感情を高める指導の強化	すべての教科で人権・同和教育の視点で命を大切にする授業を展開	HR活動やすべての教科の授業で取り組む。(年2回実施)	A	職員研修で第三次とりまとめについて学習し、HR活動や各教科で取り組みを行った。

いじめの防止等	いじめ防止対策	いじめ実態減少	①アンケートの実施や担任面談等による早期発見 ②携帯電話やインターネット上でのトラブル防止	①全校集会や生徒会による周知徹底 ②HRや集会等においての情報提供や呼びかけの徹底	B	①2回のアンケート実施によって、いじめの実態把握ができた。また、担任をはじめとして組織的な早期対応も場面に応じてでき、教育相談部との連携も行っている。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域連携	防災型コミュニティスクールの取組	地域住民と学校関係者、行政の協力体制確認を行うと共に、防災訓練やイベントを通して地域住民とのつながり、連携を深める。	①学校運営協議会の実施 ②防災マニュアルの作成及び市内の他高校との情報共有 ③防災教育の設定 ④ボランティア活動を通して学校と地域を繋げる。 ⑤行政及び警察・消防との災害発生時の初期対応と連携体制の確認	B	①3回実施 ②防災マニュアルの確認・見直し、市内3校と玉名市との2回の合同運営協議会を実施。 ③全生徒への防災教育と避難訓練を実施した。 ④地域のためにゴルフ大会を開催し、災害時の受付訓練を行った。 ⑤合同運営協議会の中で確認した。
工業教育の推進	ものづくり教育の充実と魅力発信	地域や関連企業との連携	地域や関連企業との連携により、ものづくり教育を充実するとともに職業人としての意識を高める。	関連企業との連携による現場見学、ガイダンス、実技指導等の実施	A	民間企業をはじめ熊本県、建設業協会等との連携による現場見学、ガイダンス、インターンシップ等の実施、管内建設業との連携による駐車場舗装工事実習(土木科) (課題)取り組みが学校のPRにつながっていない。
		専門分野への知識や技能の深化	ジュニアマイスター取得において、昨年度20%増と学校表彰	ブロンズの認定推奨	B	ジュニアマイスター取得125人(昨年より24%減)目標達成ならず。一昨年度は上回った。課題)年度によって増減が激しい。
		魅力発信	ホームページや地域イベントへの参加を通して、本校の魅力を発信する。	①地域イベントへの参加、生徒作品の寄贈 ②各種コンテストの上位入賞 ③ホームページの充実(定期的な更新)	A	①たまな粋燈祭り竹灯籠製作、学童クラブ「プログラミング教室」(電気科)、全国高校総体アウトドアコンポート製作、玉名産業祭参加(電子科) ②ものづくりコンテスト電子回路組立、測量金賞→九

						<p>州大会出場、旋盤作業、電気工事入賞 生徒研究発表会、東海大学学長賞受賞(電気科) ③取り組み等情報発信 (課題) 取り組みが学校のPRにつながっていない。</p>
保健管理	部活動の振興	魅力ある部活動の活性化を図る。	<p>①部活動の加入率85%以上をめざす。 ②各種大会において、上位入賞と九州・全国大会出場をめざす。</p>	各部活動ごとに部活動の指針にもとづき長期、中期、短期の目標を明確にし、計画的に活動する。	B	<p>①部活動加入率は90%であったが、なかには年度途中で退部する生徒も増えており、継続した活動を促していくことに課題が残る。 ②レスリング部、ソフトテニス部、弓道部がインターハイに出場した。その他にも、地元で行われたレスリング競技では、ボランティアとして多くの生徒が大会運営に携わり、良い経験となった。</p>
		部活動での怪我の防止に努める	毎日の健康観察の実施及び活動場所の安全管理と整理整頓	<p>①部活動顧問会で情報を共有し、安全管理を行う。 ②月ごとの活動計画を提示し、必ず週1日以上以上の休養日を設ける。 ③各部の代表者に救命講習を受講させ、生徒相互の安全意識の向上を図る。</p>	B	<p>①②各部ごとに活動計画を策定し、計画的な部活動の実施に努めた。今後もより一層顧問間での連携を密にとりながら、適切な休養日の設定や安全管理に努めていく。 ③運動部活動の代表者には救命講習を受講させ、各部内での情報共有を図り、生徒相互の安全意識の向上に努めた。</p>
	安心安全な学校づくり	安心安全な学校作りのための環境整備	<p>①「安全点検」の実施 ②飲料水(冷水機)の水質検査</p>	<p>①学期2回の「安全点検」を実施し、必要に応じて事務室へ整備・修理等を依頼する。 ②毎日、飲料水(冷水機)の水質検査を実施</p>	A	<p>①今年度より学期2回の「安全点検」を実施し、より安全・安心に力を入れた。 ②保健委員会活動の一環として「飲料水の水質検査」を毎日実施し、安全な水であることを確認した。</p>

心身の健康を育む	健康に対する意識や自己管理能力の育成	①毎日の「健康観察」の実施 ②保健だより等で健康に関する情報提供 ③部活動生（主将・マネージャー）への救急処置講習会の実施	①毎朝「健康観察カード」の提出時に担任と生徒の心身の健康について情報を共有する。 ②「保健だよりコンクール」での連続入賞を目指す。 ③体育会系部活動生（主将・マネージャー）への救急処置法講習会の実施	A	①健康観察カードの実施により生徒の心身の健康状態把握ができ、担任及び各関係部署と連携を取ることができた ②今年も優秀賞を受賞し、6年連続受賞となった ③救急処置法講習会を今年度も実施することができた。
	特別支援教育を含めた相談活動の充実	課題を持つ生徒・支援の必要な生徒の早期発見・早期対応 特別支援教育に関する職員の共通理解と実践	①職員研修の実施 ②生徒状況把握のための各種調査の実施 ③組織的な支援体制の構築に向けた検討 ④SC・SSWや関係機関との連携	B	①生徒理解研修を開催し、全職員で気づきを共有できた。 ②保護者の気づきアンケートを全校生徒について実施した。職員の気づきは記入者が少なく、方法について検討を要する。 ③特別支援教育委員会の組織的運用については継続課題である。 ④SC・SSWとよく連携できた。
	自尊感情を高めるための取組及び他人への思いやりを持つ生徒の育成 命あるすべてのものを大切にすることを育てる。	いのちを大切に にする教育の 実施 ストレス対処 教育	全校生徒対象及び、各学年対象の講演会の実施 LHR等での ストレス対処 プログラム	B	命を大切にする講演会を全校生徒対象及び各学年で実施することができた。 ストレス対処教育についてSCの助言を仰いだ。

4 学校関係者評価

評価項目「学校経営」の中で、入学定員の確保については、前期（特色）選抜において、200人の出願となり、後期（一般）選抜では108人の出願となった。昨年度と比較をすると大きく下回る結果となった。

評価項目「キャリア教育（進路指導）」では、毎年卒業時の進路決定率100%を維持している。本年度の全員内定は2月になったが、初回受験の就職内定率は91%で良好であった。就職内定状況が良好であることが、中学生の進路選択に大きな影響を与えていると考えられる。また、全職員・担任・保護者との円滑なコミュニケーションを図り、組織的に進路指導を行っていることも、その充実の大きな要因であると考えられる。進学については、担任、教科、進学係との連携で福岡大学に合格したが、来年度は国立への進学に向けても力を入れていきたいと思う。

また、評価項目「学力向上」においては、継続的な課題となっている。自学の取り組みの向上については、良い結果が得られていない。それぞれ教科による継続した指導は行っているが、さらに生徒の意識改革を図っていく必要がある。

評価項目「工業教育の推進」では、ジュニアマイスター取得目標において、昨年度より減少したものの、一昨年度を上回った。学校表彰については9年連続で表彰を受けており、高い評価を得た。

5 総合評価

本年度は23項目で評価を行い、A判定が7、B判定が15、C判定が1という結果であった。

評価項目（小項目）の「学校経営方針の徹底」と「入学定員の確保」は昨年度A判定からB判定となった。「学校経営方針の徹底」では、会議やPTA総会、学年保護者会、学校ホームページなど、さまざまな機会を捉えて教育方針を周知してきたが、保護者の認知度が少し低下した。また、「入学定員の確保」では、昨年度以上の目標を掲げ、中学校訪問や中学校への本校パネル展示、また、体験入学を改善し、本校の魅力を発信してきたが、昨年度の入学希望者を上回ることはできなかった。次年度に向けて新たな取組が必要である。

評価項目（小項目）の「生徒全員の進路実現」では、昨年度に引き続きA判定となった。今年度は生徒全員の内定が2月になったが、生徒・保護者との円滑なコミュニケーションを図り、充実した進路指導を行うことができた。今後は大学進学の実現に向けても力を入れていきたい。

評価項目（大項目）の「生徒指導」においては、（小項目）「基本的生活習慣の確立」と「交通安全教育の推進」共にB判定であった。「交通安全教育の推進」の自転車二重ロック、原付バイク等の交通事故件数など、昨年度と大きく変わりはないが、職員の指導は徹底してきており、今後の充実期待できる。

評価項目（小項目）の「いじめ防止対策」においては、昨年度同様B判定であったが、組織的な対応が充実してきている。教育相談部との連携もスムーズになり、未然防止や早期発見・早期対応がとれている。

評価項目（大項目）「工業教育の推進」、（小項目）の「ものづくり教育の充実と魅力発信」では、「地域や関連企業との連携」と「魅力発信」がA判定であった。民間企業や熊本県、建設業協会等との連携がスムーズに図られており、地域イベントへの積極的参加や作品の寄贈など、また、ホームページの充実により魅力発信ができた。さらに、ジュニアマイスター顕彰制度の認定者数は、目標数には達しなかったが、一昨年度を上回る状況であるとともに、9年連続での学校表彰であった。

評価項目（大項目）「保健管理」、（小項目）の「安心安全な学校づくり」は昨年度に引き続きA判定であった。特に、安全点検を学期2回実施し、安全・安心に向けて充実を図った。（小項目）「心身の健康を育む」の健康に対する意識や自己管理能力の育成においてもA判定であった。毎日の健康観察カードを有効に活用し、生徒の健康状態を把握するとともに、情報共有を図った。また、「保健だよりコンクール」では6年連続の優秀賞を受賞することができた。さらに、救急処置法講習会も継続して開催した。（小項目）「心身の健康を育む」の特別支援教育を含めた相談活動の充実では、職員研修の実施により職員全員での共有ができた。また、SC、SSWとの連携がスムーズにとれた。次年度に向けてさらなる充実を図りたい。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 年度によって入試倍率の変動がある。安定して1倍以上を確保できるように、地域、保護者、中学生へのPRを工夫改善し取り組んでいく。
- (2) 基礎学力の定着を図るために、自学に対する意識を向上させ、学習習慣を身に付けさせるための工夫改善を行う。
- (3) 大学進学の実現に向け、生徒の意識向上及び指導の充実を図る。
- (4) 登下校時におけるバイク通学生及び自転車通学生の交通事故防止に向けた取組を充実する。
- (5) いじめ根絶に向けて、関係部署の連携と取組の充実を図る。
- (6) 地域貢献活動の実現に向けて工夫改善を行う。
- (7) 部活動を通じた規範意識の向上と、自己の目標に挑戦する生徒を育成する。
- (8) 課題を持つ生徒や支援の必要な生徒の早期発見と、全職員への情報共有を積極的に図る。また、具体的な支援体制について、さらなる充実を図り、継続して取り組む。